

## 議題と向き合い、お互いを尊重し合う児童の育成

～児童が主体的に話し合いに参画できる工夫と教師の適切なフィードバックを通して～

八重瀬町立東風平小学校 仲 座 旦

### I テーマ設定理由

これからの社会は、グローバル化や人工知能(AI)などの技術革新が急速に進み、予測が困難な時代を迎えている。このような社会において、子ども達には様々な変化や社会の課題に主体的に向き合い、他者と協働して解決していく力や、自ら考え判断して行動し、よりよい社会や幸福な人生を自ら切り拓いていく力が求められている。

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編」(以下「特活編」)では、特別活動で育成する資質・能力として「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点で整理された。それらの資質・能力は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して」育成されることが求められている。集団活動や体験的な活動を通して、多様な他者と人間関係を築き、協働して学級や学校文化の創造に参画し、人間関係形成や社会参画に資する力を身に付けることが期待されている。また、その活動を通して、自分自身や他者を互いに尊重し、夢や希望を持って生きる自己実現の力を育むことも重要である。そのためには、他者との良好な人間関係を築き、協力してやり遂げる力を養うことや、お互いを尊重しながら活動する学級活動の充実が求められる。

これまでの実践を振り返ると、学級の児童は何事にも意欲的に取り組める児童がいる一方、話し合い活動に取り組む前から自分には関係ないと考え、気力や自信が持てずに主体的に活動しない児童や、自分の意見を持たず、人任せにする児童もいる。その原因の一つとして、話し合いが教師主導で行われており議題の内容について、児童が「話し合いたい」と思っていない事や自分事としての捉えが弱いことが挙げられる。また教師の指導として、時間がたりない等の理由で終末の教師の話を省き、教師のフィードバックによる話し合い活動への価値づけが十分にできておらず、児童の主体的な実践や活動につなげられていないことも原因であると考え。そこで、より自分事として感じられるような議題の決定の仕方を工夫し、教師のフィードバックによる話し合い活動への価値づけを行う場面を意図的に設けることで、主体的な活動につながるのではないかと考える。主体的に活動できるということは、自ら考えて行動できるということにつながり、困難な課題に直面しても解決に向けて努力したり、友達と協力したりすることができる。このような活動を積み重ねることで他者と協働する意義を児童に捉えさせ、お互いを尊重し合いながら、主体的に自分自身や集団をよりよくしようとする力を高めることができる。と考える。

そこで本研究では、話し合いたい議題についてアンケートや児童の発言等で実態を把握し、クラス全員で話し合いたい議題について考える時間を設けたり、話し合い活動の中で小集団での話し合いの場を設定したりして、一人一人が意見を言える場を意図的に設けることで学級全員が主体的に話し合い活動に参画できるようにしたい。また、終末の教師の話において、友達のことを認める発言や行動などを適切にフィードバック(評価)し、お互いを尊重し合う支持的風土の醸成や、次回の話し合いへの意欲を高めたい(指導と評価の一体化)。そうすることで議題と向き合い、お互いを尊重し合いながら活動しようとする児童の育成に繋がる考え、本テーマを設定した。

## II 研究目標

特別活動において議題決定の仕方や教師によるフィードバックの工夫を行い、活動を活性化させることで議題と向き合い、お互いを尊重し合いながら活動する児童が育成できるよう実践研究を行う。

## III 目指す児童像

議題と向き合い、お互いを尊重し合いながら活動する児童

## IV 研究方法

- 1 特別活動での話し合い活動において、自分事として捉えることができるよう議題決定の仕方の工夫を行い、解決への意欲を高め、児童が主体的に話し合いに参画できるよう実践研究を行う。
- 2 話し合い活動や事後の実践への意欲付けとなる効果的な教師のフィードバックを行い、お互いを尊重し合う児童を育成できるよう実践研究を行う。
- 3 実践研究、事前事後でのアンケートの分析を行い、目指す児童を育成するのに効果的であったかを確認し、改善を図る。

## V 研究内容

### 1 特別活動において育成する資質・能力について

「特活編」において、育成する資質・能力が「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点で整理された。

特別活動における「人間関係形成」とは「人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成すること」である。児童は様々な集団の中における「個と個」の関わりの中で互いの違いを認め合い、協議したり協働したりする中で、よりよい人間関係の築き方を体得していく。また、様々な集団の一員として違いを越えようとしたり、多様性を理解しようとしたりする過程で「築きたい人間関係」を形成していくようになる。

「社会参画」とは、学校生活の中で自分が所属している様々な集団の活動に関わることを通して、「将来所属する様々な集団や社会に対して主体的、積極的に関わり、様々な問題を解決しながらよりよいものにしていこうとする資質・能力を育てること」である。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。児童は「個の成長」の広がりとともに、自らが参画するコミュニティも広がっていく。また、コミュニティが広がることで「人間関係形成」の場面も一層広がっていく。こうして児童は、所属する集団をよりよくしようと参画し、貢献していく活動を積み重ね、持続可能な社会の担い手としての意識を醸成し「つくりたい社会」の実現へつなげていく。

「自己実現」とは「将来なりたい自分に近づくため、今の自分にできることを考え実践しながら、よりよい自分づくりを目指すことができるようにすること」である。そのためには、他者との関わりの中で自己理解を深めていくこと、自らの生き方を考え、自己のよさや可能性を生かしながら「個の成長」を重ねることが必要であると考えられる。

杉田(2017:79)は「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点と育成を目指す三つの資質・能力の関係を次の表のように整理している。

表1 特別活動における資質・能力と三つの視点の関係

	知識・理解	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
人間関係形成	多様な人と協働して活動する意義の理解やその方法	お互いの意見の考えの違いを尊重し、互いのよさや可能性を生かす関係性をつくること	社会的集団における人間関係を、自主的、実践的によりよいものへと形成しようとする
社会参画	自発的、自治的な集団活動の意義や活動を行う上で必要な合意形成するための方法	学級や学校の集団の生活の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ること	学級や学校の集団や活動に参画し、問題解決を主体的に解決することを通して、よりよい社会や生活を創造しようとする
自己実現	自己実現に必要な自己理解を深め、意思決定するための方法	自己のよさや可能性を生かし、自己の在り方生き方を考え、設計するなどの意思決定ができること	現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、目標を決めて取り組み、自己の可能性を拓こうとすること

この表から、特別活動において育成を目指す資質・能力の中には3つの視点が反映されていることが分かる。

児童は、学校生活を通してその時々になりたい自分に近づこうと努力する(自己実現)。同時に、多様な他者とよりよく関わろうとする(人間関係形成)。さらには、所属する集団の一員としての役割を果たそうとする(社会参画)。このように、三つの視点は密接に関連しており、明確に区別されるのではなく、特別活動の方法原理が「なすことによって学ぶ」であることから「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点は学習過程のそれぞれの場面で適切に発揮できるようにすることが大切である。

本研究では、よりよい学級生活づくりに主体的に参画し(社会参画)、自己のよさや可能性を生かしながら活動に取り組み(自己実現)、その中でお互いを認め、よさを生かし合える関係を築き、他者と協働していくこと(人間関係形成)でテーマにつながる児童が育成できると考え、学習過程のそれぞれの場面で三つの視点を意識して活動を行っていく。

## 2 議題と向き合う児童の育成

### (1) 議題決定の工夫について

「特活編」において、学級や学校における生活をよりよくするための課題は「児童の発意・発想を大切にしながら、(中略)教師が適切な助言を行うことで、課題発見の視点を与え、議題の提案につなげる」ことが示されている。議題と向き合いながら自主的、実践的に活動するという事は、「みんなで話し合って解決したい」という願いを持ちながら解決に挑むことであり、そのためには、議題について児童が「話し合いたい」と思うような工夫が必要である。加藤(1994:13)は、話し合い活動は与えられた活動ではなく、「子どもの発意を大切に、自治的な実践活動を体験させること」が大切であると述べている。児童自ら見いだした議題について問題意識をもって話し合い、納得のいく合意形成ができれば、自ずと実践意欲がわき、その後の実践では自己の役割を果たしたり、互いのよさを生かして協働したりしながら活動できるようになると考える。そのためには、児童が議題を自分事として捉えることができるように議題について考える時間を設定したり、話し合いたい議題について学級全員で決定する場を設けたりする必要がある。

また、橋本(1997:87)は「子どもの願いや思いをもったとき、『みんな~しよう』と全体に呼びかけることを促す『条件づくり』は必要であり、(中略)個人が全体に向けて声を出す場(システム)をつくり、機能させる」ことを挙げている。

以上のことを踏まえて本研究では、児童が議題を自分事として捉えることができるよう、アンケートや日常生活での児童の発言等を活用し、議題について考える時間を設定する。さらに、児童の

小さな声でも受け止め、全体に広げる場を意図的に設けることが大切であることを踏まえて、児童が表現しやすい環境づくりにも努める。また、議題箱を設置し、いつでも話し合いたい内容を児童が書けるようにする。出てきた課題や案について、議題選定の視点(図1、図2)を提示し、学級全員で話し合う議題を決定する場を設ける。

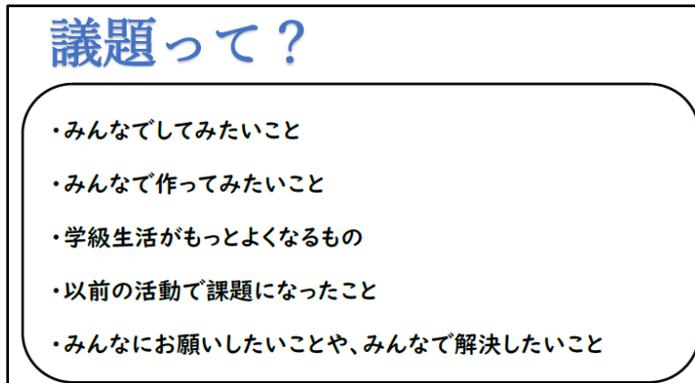


図1 議題の説明資料

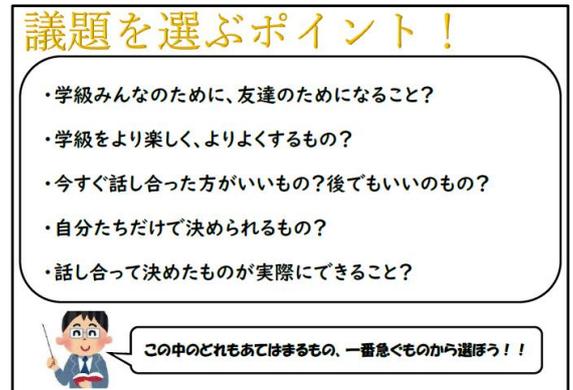


図2 議題選定の視点

## (2) 議題を自分事としての意識を高める手立て

児童が学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」において、主体的に議題に向き合い、解決に向けて活発な話し合いができるようにするためには、議題に対する自分事としての意識を高める必要がある。学級全員に「自分たちの問題だ」という意識付けをするために、提案者の思いや願い、提案理由を伝えたり、自分たちの生活を振り返り、議題に関する経験や問題の原因などを児童に挙げさせて見える場所に掲示したりすることで、児童の意識が高まるようにする。また、学級活動「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」での授業を想起させて議題に対する意識付けを行う。

一連の活動を振り返り、次の議題への意識を高めることへとつなげる。「特活編」において、学級活動の振り返りは、「話し合い活動だけでなく、一連の実践の成果や課題を振り返ることで、次の課題解決に生かし、新たな課題の発見につなげるものにしなければならない」と示されている。振り返りの場面において、自分たちでも学級の課題を解決できたという自信や改善点を共有することで次の議題に対する自分事としての意識を高めることへとつなげることができる。

そこで本研究では、議題に対する経験や問題の原因などを児童に挙げさせる時間や学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」での授業での経験を想起させる時間を意図的に設ける。また、一連の実践を通して児童自身や学級が成長したこと、さらに解決したいことに気づかせる振り返りの時間を設けることで、議題を自分事として捉えさせる手立てとする。

## 3 お互いを尊重し合う児童の育成

「特活編」において、「自分と異なる意見や少数の意見も尊重し、安易に多数決で決定することなく、折り合いをつけて集団としての意見をまとめることの大切さを理解」することが「自発的、自治的な活動を行っていく上での基盤となる」とし、よりよい合意形成の過程を通じて、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとする態度を養うことが期待されている。

橋本(1997:106)は、「『無理強いする合意』や『性急で乱暴な多数決』を避けるためには「相手の意見をどう『理解する』かがポイントとし、協働的で自主的な実践活動を実現するためには、他者の意見を理解しながら合意形成していくことが大切であり、相互理解を促進させる教師の適切な助言が必要である」と述べている。

そこで本研究では、出された意見をよく理解するために、質問し合う時間を設け、質問を通して意

見の内容やそこに込められている思いを確認する。また、出された意見について、提案理由を踏まえてよりよい解決策を見つけるために賛成意見や反対意見を述べ合わせる。賛成・反対の理由、それぞれの意見の違いを明確にしながら、提案理由に合ったよりよい意見にまとめていく。その際、安易に多数決で決定することなくそれぞれの意見の理由を明確にしながら、自分もよくてみんなもよい意見としてまとめることができるようにする。反対意見や少数意見も受け入れ、一人一人の意見を大切にしてお互いを尊重し合う話し合い活動を目指す。

#### 4 主体的に話し合いに参画できる工夫

本研究では、全員がクラスの一員としての自覚をもち、学級会に主体的に参画できるよう、学級会の中で小集団での話し合いの場を設定する。全体場で話すことに苦手意識を持っている児童も安心して発言ができるようにする。加藤（1994:50）は、クラスに何も発言しない児童や積極的でない児童がいる場合の解決策として「グループ(班)での話し合いが有効である」と述べている。グループ(班)で話し合うことで、「苦手意識がある児童も何か発言できるようになり自信がついてくことや学級全体での話し合いへの参加意欲が高まる、集中力のある生き生きとした話し合いになる等のよいところがあること」を示している。小集団で話し合うことで互いの意見のよさを認め合いながら協働的に合意形成していくことができると考える。児童は小集団での合意形成、学級全体での合意形成と学級会の中で二度の合意形成に関わることになる。小集団でお互いの意見のよさを認め合い、生かしながら合意形成をしていくことで、一人一人が合意形成の仕方を身に付け、全体場においても主体的に話し合いに関わりながら合意形成を図っていくことが可能になると考えられる。また、小集団での話し合いの場を設定することで、少人数の関わりが生まれ、認め合い、互いに承認しやすい状況を作ることができるのではないかと考える。

本研究では、「出し合う」段階でグループの意見をまとめるために1回目の話し合いを行う(表2)。その後、「比べ合う」段階で、2回目の話し合いを行い、それぞれのグループから出された意見をどのようにまとめていくかを話し合う。更に、「提案理由に最もあった意見はどれか」「意見をまとめていく際に出てきた課題を解決するにはどうしたらよいか」等、意見がまとまらないときや合意形成に向けて話し合う必要がある場合には、必要に応じて小集団での話し合いの場を設定していくようにする。

表2 話し合いの流れ

場面	話し合う内容
出し合う	<p><b>班での話し合い①</b></p> <p>班のメンバーでの意見を出し合い、班の意見をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1つの意見を選ぶ</li> <li>・ 複数の意見を合わせて1つの意見にする。</li> <li>・ それぞれの意見のよいところを生かし別の意見にする など</li> </ul>
比べ合う まとめる	<p><b>班での話し合い②</b></p> <p>それぞれの班から出された意見をどのようにまとめていくかを話し合ったり、意見がまとまらないときなど合意形成に向けて話し合う必要がある場合に話し合ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 似ている意見を1つにまとめる</li> <li>・ 優先順位をつける</li> <li>・ それぞれの意見のよいところを生かし別の意見にする</li> <li>・ もっとも提案理由にあっている意見はどれか</li> <li>・ 意見をまとめていく際に出てきた課題を解決するには など</li> </ul>

## 5 教師の適切なフィードバックについて

東京都特別活動研究会(2023)は、「よりよい集団や人間関係をつくる上で、『終末の助言』の工夫は欠かせないものである。話し合いや実践後に何を価値付けたか、何を次につなげる課題として児童に問いかけたかで、今後の集団や人間関係は大きく変化してくる」としている。橋本(1997:132)は、「教師の振り返りは、本日の話し合いを指導者として自身を振り返るというのではなく、話し合いを『評価』し、子どもに効果的に返すことを言う」と示している。児童のがんばりや発言のよさ等を具体的に称賛し、今後の実践や活動に対する意欲を高めさせることが大切である。また、課題に対しても直接伝えたいところだが、そこをあえて児童に考えさせ答えを見いだせるよう助言する。そうすることで、答えを見いだした児童も称賛することができる。そこで本研究では、児童の実態を把握しながら終末の教師の話で取り上げる内容(図3)を伝え、効果的なフィードバックによる価値付けを行うことができるよう実践する。

ア 前回から成長が見られた言動	イ 議題、提案理由やめあてに戻って考えた発言
ウ 事前を含めた司会グループの工夫や努力	エ 友達、学級全体のことを考えた発言
オ 話し合いをまとめるような発言(合意形成)	カ めあてや前回の振り返りを生かした発言
キ 実践、生活への意欲付けや次時への期待	ク 次への成長のために気づかせたいこと

図3 終末の教師の話で取り上げる内容  
(東京都特別活動研究会を基に作成)

## VI 授業実践

### 1 議題 「1年生のための交流会を開こう」

学級活動(1)「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」

### 2 議題選定の理由

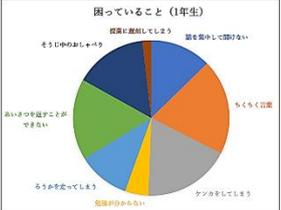
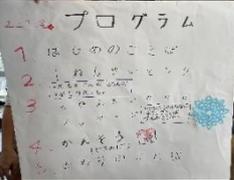
本議題は、自分たちの学級で楽しい集会を行ってきた経験を生かし、他学年とも交流して絆を深めたいという児童の思いから議題として選定された。特に1年生とは、1学期に総合学習を通して本校の避難の仕方について動画を作成し分かりやすく教えてあげたり、休み時間なども遊んだりなど、様々な場面で関わるが多い。しかし、5年生から進んで1年生と関わりを持つとする意識は低く感じる。そこで、今まで自分たちが経験してきたことをもとに1年生と楽しく活動できる内容や工夫を考え、交流することで、これから最高学年になる意識を高めるようにしたいと考える。この交流会を通して、相手を思いやる気持ちやみんなで助け合っていくことの大切さを実感し、お互いを尊重し合う気持ちを育むことができるようにするとともに、信頼し支え合うよりよい人間関係を築いていけるようにしたい。そのために、1年担任と連携を図り、5年生にとっても1年生にとっても意義のあるものになるよう、それぞれのねらいを明確にしたうえで活動できるようにする。

また本時では、児童の意見をあらかじめ掲示し、「比べ合う」段階から進めることで話し合いの時間を確保し、多様な意見のよさを生かして話し合いの質的な向上を図る。さらに、自分の考えを学級会ノートにまとめたり、グループでの話し合いを取り入れたりするなどして、一人一人が主体的に話し合いに参画できるようにしたい。

### 3 事前の活動

表3 事前の指導のまとめ 【対象】《3つの視点》

日時	児童の活動	指導上の留意点 ★【評価】
1/20(月) 放課後 【計画委員】 《社会参画》	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案者の児童の思いを確認し、議題を選定する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>議題選びの視点を念頭におき選定すること、提案者の思いが伝わるよう提案理由を考える。</li> <li>★よりより学級生活のために、進んで議題の選定をしようとしている。</li> <li>【主体的に取り組む態度】(提案カード、観察)</li> </ul>

<p>1/21(火) 帰りの会 【学級全員】 《社会参画》</p>	<p>・学級全員で話し合いたい議題について考え、決定する。</p> 	<p>・提案者の提案のもと、学級全員で決定する。 ★学級生活をよりよくするために、進んで議題を考えたり決定したりしている。 【主体的に取り組む態度】（観察）</p>
<p>1/22(水) 朝の会 【学級全員】 《自己実現》</p>	<p>・提案者の児童の思いを確認し、議題について自分たちの行動や課題について振り返らせる。</p> 	<p>・学級活動(2)「下級生との関わり方」で実践してきたことや1年生と交流する機会が少なくなってきたこと、高学年としての自分たちの行動を振り返らせ、自分事としての意識を高めさせる。 ★よりより学級生活のために、進んで議題について考えたり話し合いに参加したりしている。 【主体的に取り組む態度】（観察・ノート）</p>
<p>1/23(木) 朝の会 【学級全員】 《自己実現》</p>	<p>・アンケートを通して1年生の実態を把握し、自分たちができることを具体的に考え学級会ノートに自分の考えを記入する。</p>  	<p>・提案理由を確認し、高学年として自分たちにできることを具体的に考えさせることで、議題を自分事として捉えさせる。 ★議題の目的に合った意見を考え、判断し、ノートに書くことができる。 【思考・判断・表現】（学級会ノート）</p>
<p>1/24(金) 放課後 【計画委員】 《社会参画》</p>	<p>・活動計画を作成する。 (話し合うこと、決まっていることの確認) ・学級会コーナーに掲示して全員に知らせる。</p> 	<p>・実態を踏まえ、日時や場所などの条件を教師が設定する。 ・提案者の思いや願いを学級全体の共同の問題となるように、提案理由を深める。 ★計画委員の役割、話し合いの進行の仕方を理解している。 【知識・理解】（観察）</p>
<p>1/27(月) 放課後 【計画委員】 《社会参画》</p>	<p>・学級会のシミュレーションと板書計画をする。</p> 	<p>・出された意見から話し合いの見通しが持てるように助言する。必要に応じて短冊に意見を記入しておく。 ★話し合いの見通しを持つことができています。 【知識・理解】（活動計画・観察）</p>
<p>1/28(火) 授業 【学級全員】 《社会参画》</p>	<p>・1年生との交流会当日のプログラムを全員で決め、見通しを持たせることでより考えやすくできる手立てとする。</p> 	<p>・自分の考えの手立てとなるようプログラムを全員で作成する。 ★話し合いの見通しを持つことができています。 【知識・理解】（活動計画・観察）</p>
<p>1/29(水) 授業 【学級全員】 《人間関係形成》</p>	<p>・グループで学級会ノートに書いた意見と理由を出し合い、合意形成を図り、グループの意見をまとめる。</p> 	<p>・グループ全員の意見や理由を大切にしながらまとめるよう助言する。 ★解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、話し合っている。 【思考・判断・表現】 (観察・発言・学級会ノート)</p>

#### 4 本時について

##### (1) 本時のねらい

5年生として、1年生に伝えたいことや思いを伝える工夫について考え、互いの意見のよさを認め合いながら決めることができる。

##### (2) 教師の活動計画

話し合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と【観点】 (評価方法)
1 始めの言葉 2 計画委員の自己紹介 3 議題の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてをもって自分の役割に臨めるようにする。</li> </ul>	
4 提案理由やめあての確認  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             めあて              1年生が安心できる内容を決めよう！           </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             議題：1年生のための1・5（イチゴ）会を開こう！           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>提案者の思いや願いを全員が理解し、学級全員の問題であることを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             提案理由              1学期は1年生と総合の時間などで関わっていたが、今は全然関わっていないので1年生に喜んでもらう1・5（イチゴ）会をして最高学年としてお手本となれるようにがんばろうとすることができる。           </div>	
5 決まっていることの確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>決まっていることを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             ①日時…2月14日5時間目              ②場所…5年1組教室              ③レク2つ メッセージ3つ           </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             プログラム              1. はじめの言葉              2. 1年生とレク              3. 5年生からのメッセージ              4. 感想（できれば）              5. おわりの言葉           </div>
6 教師の話	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案理由やめあてを意識して話し合いを進めるように伝える。</li> <li>話し合いのポイントを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             2 話し合い活動で大切なこと              (1) 議題についてみんなで考え、みんなで話し合おう。              (2) 友だちの意見や考えを大切にしよう。              (3) 話し合ってきたことは、必ずみんなで実行しましょう。           </div>	  
7 話し合い 話し合うこと① 『何を伝えるか』	<ul style="list-style-type: none"> <li>柱①はグループの意見を事前に話し合い、「比べ合う」から始める。</li> <li>話し合いが行き詰まったり、内容が合わなかったりした場合は必要に応じて司会者や全体に向けて助言する。</li> <li>自分の考えに固執せず、納得した上で自分の考えを変えるなど、折り合いをつけて話し合いができるよう適宜助言する。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             【思考・判断・表現】              ・解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、話し合っている。              （観察・発言・学級会ノート）              【知識・理解】              ・合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解している。（観察・発言）           </div>
話し合うこと② 『伝えるための工夫』  何で伝えるか ○劇 ○動画 ○Canva ○スライド ○紙芝居		

<p>思いを伝える工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生に分かりやすい言葉をつかう</li> <li>○具体的な場面を考えて動画をとる。</li> <li>○絵やイラストをつかう。</li> </ul>	<p>【以下の場合には教師が助言する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の論点がずれている場合</li> <li>・話し合いが焦点化されず、收拾がつかなくなっている場合</li> <li>・話し合いが行き詰まっている場合</li> <li>・価値付けたい発言や行動があった場合</li> </ul>	
<p>8 決まったことの発表</p>	<p>・友達のことを認める言動や、合意形成に向けての発言等を取り上げ、称賛し価値付けをする。</p>	<p>今回は終末の助言で図3の中から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イ 提案理由やめあてを意識した発言</li> <li>エ 1年生のことを考えた発言</li> <li>キ 次の話し合いや実践活動への期待について述べた。</li> </ul>
<p>9 教師の話</p>	<p>・終末の助言では、①前回の話し合いと比べてよかった点や②合意形成したことへの称賛などを簡潔に述べる。</p>	
<p>10 ふり返り</p>	<p>・計画委員へのねぎらいや児童への賞賛、事後の活動への意欲付けをする。</p>	
<p>11 終わりの言葉</p>	<p>・めあてに沿ったふり返りを書くことを意識させる。</p>	

(3) 事後の指導

事後の指導について次のようにまとめた(表4)。

表4 事後の指導のまとめ

日時	児童の活動	指導上の留意点 ★【評価】
<p>1/31(金) 授業 【学級全員】 《人間関係形成》</p>	<p>・伝えるグループごとに分かれて、役割分担をする。</p> 	<p>・学級会で決まったことを意識してできるように助言する。 ★交流会のめあてを意識し、グループのみんなと協力して取り組んでいる。 【思考・判断・表現】(観察)</p>
<p>1/31(金) ～2/13(木) 【学級全員】 《人間関係形成》</p>	<p>・グループごとに計画を立てて、協力して準備する。</p> 	<p>・グループ全員で協力して活動できるようにする。 ★交流会のめあてを意識し、グループのみんなと協力して取り組んでいる。 【思考・判断・表現】(観察)</p>
<p>2/14(金) 授業 【学級全員】 《人間関係形成》</p>	<p>・「1年生のための交流会」を行う。</p> 	<p>・交流会のねらいを確認し、協力して実践できるようにする。 ・協力したり工夫して活動したりしている児童を称賛する。 ★交流会のめあてを意識し、みんなと協力して取り組んでいる。【思考・判断・表現】(観察)</p>
<p>2/17(月) 授業 【学級全員】 《自己実現》</p>	<p>・一連の活動を振り返る。</p> 	<p>・めあての達成に向けたこれまでの自分を振り返り、頑張ったことや友達のよかったところについても認められるように助言する。 ★交流会の成果と課題を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かしたりしようとしている。【主体的態度】(学級会ノート)</p>

## Ⅶ 研究結果と考察

議題と向き合い、お互いを尊重できる指導の工夫として、議題を自分事として捉え主体的に話し合いに参画できる工夫、教師の適切なフィードバックを基にした実践を報告する。また、話し合い後の実践活動、振り返りについて報告する。

### 1 議題と向き合う児童について

児童は今まで自分たちの学級のみならず楽しい集会を行ってきた経験を生かし、他学年とも交流して絆を深めたいと教師に思いを伝え、提案カード(資料1)を議題ボックスへと投函した。特に1年生とは、1学期に学級活動(2)題材「下級生との関わり方を考えよう」で決定したことを総合学習を通して関わってきた。しかし、後半になるにつれてなかなか先輩として関わりを持つとする意識は低くなってきたことから「1年生に学校のルールなどを動画で伝えたい」「1年生に安心して学校生活を送れるように学校のことを伝えたい」という声が児童からあがり、「1年生と交流会をしよう」ということになった。学級活動(2)での学びが学級活動(1)につながり、学級会で話し合うことになった。

提案したいこと「1年生と交流会をしよう」
( ) みんなでやってみよう ( ) みんなで決めよう ( ) みんなで解決したい
理由
今まで1年生とかかわる機会が少なかったから高学年として1年生のために学校のルールなどを教えあげたいから。

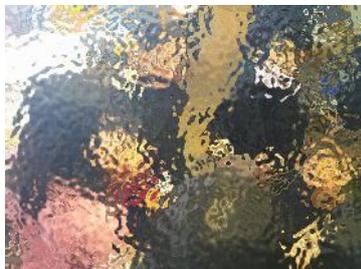
資料1 児童の議題提案カード

また、提案者の思いや願いを全体の場で確認(資料2)し「何のために」実践に取り組むのかを学級全体で確認し、みんなで「やりたい」という思いを伝え合う議題決定の場を設けることで子ども達の話し合いへの意識を高めることにつながったと考える。



資料2 全体の場での様子

### 2 主体的に話し合いに参画する児童の変容



資料3 話し合いの様子

A児は全体でもペアやグループ学習でも自分の思いを伝えるのが苦手な児童であった。しかし今回、議題について話し合いたいと思うことで、自分の考えを発表することが苦手なA児も主体的に話し合いに参画する姿が見られた(資料3)。また、小集団での話し合いを設けることで、全体の話し合いの場でも挙手などで自分の意志表示をすることができた。議題を自分事として捉え、向き合うことで主体的に話し合いに参画できることにつながったと考える。

### 3 お互いを尊重できる児童について

#### (1) 合意形成に向けての話し合い

B児：『「あいさつを返す」がいいと思います。理由は、あいさつをしたら学校生活が気持ちよくなると思うからです。』

C児：『「あいさつを返す」もいいと思いますが、私は1年生の中には声を出すのが苦手な子もいると思うので別のものがいいと思います。』

～あいさつについて賛成・反対の意見を全体に聞く～

D児他数名：「あいさつに関しては心配な人の意見もあるので、反対意見のない『チクチク言葉を言わない』にしたらいいと思う！」

～司会が全体に確認後、全員が賛成し決定～

資料4 全体での話し合いの様子

全体の合意形成の場面でも「1年生のために」というめあてを意識した話し合いの場面が見られた。小集団でも何度も話し合い、そこで意見をまとめていくというグループでの合意形成を経験することで、合意形成の仕方が身に付き全体の話し合いの場面でもみんな真剣に合意形成に関わろうとする姿が見られた(資料4)。C児の発言で新たな視点が生まれ、より話し合いを自分事として考えるきっかけとなった。C児の発言は「1年生が安心して学校生活を送れるように」というめあてや提案理由を押さえ、具体的に実践をイメージした発言であり、問題意識をもって話し合いに参画していたことが分かる。そして最終的に、相手のことを考えた発言にみんなが納得し、少数意見のこともしっかり考え、よりお互いを尊重した意見がクラス全体の意見としてまとまることができた。

## (2) 交流会に向けての協働的な準備

学級会を終えた後の活動では、三つのグループに分かれ、それぞれのメッセージをどんな構成で伝えるのか話し合っ進めることができた。休み時間や放課後にもお互いに声をかけながら、互いに支え合い取り組む様子が見られた。「けんかをしない」のメッセージの動画を作成したグループは、1年生の普段の生活を調べ、授業の様子や休み時間の様子を再現し、分かりやすいようにクイズ形式にする等、1年生のことを考えた内容を工夫して取り組む姿が見られた(資料5)。当初、5年生の児童は「ルールを説明するだけの動画」を作ろうとする傾向が見られたが、教員やクラスメートとの話し合いを通じて「1年生は長い説明を聞くのが難しい」「文字だけではなく、実際の動きを見せる方が分かりやすい」を考える中で、互いの意見を尊重しながら話し合う姿が見られた。その結果、「イラストや身振りを使って説明する」「実際にお手本を見せながらルールを伝える」「優しい言葉づかいで話す」といった工夫が加えていた。どのグループも作成した動画やスライドを見直し、「ここが分かりにくいからもう一回撮ろう」「この動きを先に入れた方が分かりやすいくない？」と自分たちでアイデアを出し合いながらよりよくすることができた(資料6)。さらに、1年生に喜んでもらいたいからと思いを込めてプレゼントを協力しながら作成する場面も見られた(資料7)。



資料5 1年生の休み時間の様子から動画を撮影している様子



資料6 スライドを見合いより良くしている様子

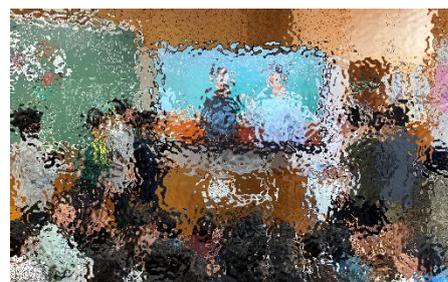


資料7 サプライズでプレゼントを作成している様子

## (3) 1・5交流会の実践と振り返り

1年生との交流会では、それぞれのグループの動画やスライドを通して、学校生活で先輩としての思いを伝えることができた。実際に1年生に動画を見せる場面では、1年生がしっかり話を聞いてくれると嬉しそうにする5年生の姿が見られた(資料8)。

交流後の振り返りでは、「1年生のためにみんな協力して準備できた」「クラスの友達が、1年生のためにがんばる姿をみて自分たちもこれからもがんばろうと思った」(資料9)といった感想がたくさんあった。この結果から、



資料8 作成した動画を通して思いを伝えている様子

5年生の児童は「相手を尊重しながらコミュニケーションをとること」の大切さを学び、それが学級内の人間関係にも良い影響を与えたと考えられる。さらに、交流会を通して5年生同士の関係にも変化が見られた。1年生をサポートするために協力し合う場面が多くあり、相手の意見を尊重しながら話し合いを進める姿が見られた。このような経験を通して、5年生同士でも互いを尊重しながら接する機会が増えたと考えられる。

1年生のために、みんなと協力して、がんばりをこなし、1年生とてよぶこでねて、  
 自分も、みんな、がんばろうと思うことができてよかった。 A みんなが、1年生のために、  
 ケル-1のみんなと、協力して、がんばりをこなし、1年生とてよぶこでねて、自分も、みんなのために、  
 みんなと協力して、がんばろうと思うよ。

資料9 交流会後の児童の振り返り

#### (4) 教師の適切なフィードバック

話し合い活動の終了後に教師が児童の発言や友達のことを思いやる行動について適切なフィードバックを行うことで、児童は自らの発言が話し合いに貢献したことを理解したり、友達のことを助けることができたなどの達成感を得ることができた。特に、教師が「発表ができない友達のことをみんなで助け合っていた」「特に〇〇さんの発言が議論を深めた」「お互いに意見を大切にしながら進められていた」「相手の考えを受け入れながら話し合えたことが素晴らしい」といったフィードバックを行うことにより、児童たちは「友達の意見を認めることの大切さ」を実感し、次第に自発的に「今の意見、すごくいいと思う!」「〇〇さんの考えも取り入れたいね」といった相互尊重の言葉をかけ合うようになった。話し合い後の振り返りでは、「みんながみんな発表できない時に助け合っていた」「話し合いが止まった時に司会や副司会を助けられてうれしかった」といった感想が見られた(資料10・11)。

司会と副司会を助けられてうれしかった。これからは助けようとかん  
 ばろうと思います。1年生のためによくがんばりたいと思います。どうかよろしく  
 1年生にがんばってほしいです。これで1年生を安心できるといいと思います。

資料10 児童の振り返り

みんながみんな発表できないときに助け合っていた。  
 賛成も反対もなとくできる話し合っていた。  
 3つ下を飛ばないのルールで内容や方法をよくつづきことが  
 できました。みんなと協力してできた。

資料11 児童の振り返り

教師がフィードバックによる価値付けを続けることで、次第に児童同士の関わり方に変化が見られるようになった。話し合いの終盤では、「その意見もとてもいいと思いますが、さらにこういうふうにしてみるのはいかがでしょうか?」「〇〇さんの意見も取り入れると、もっと分かり

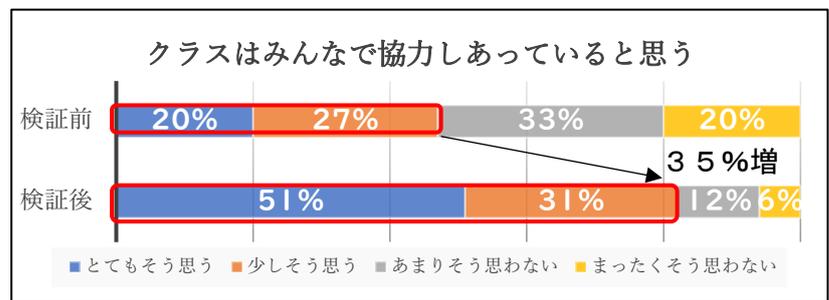
やすくなると思う」といった、相手の意見を尊重しながら対話をする様子が多く見られたり、話し合いだけでなくその後の実践活動の中でもお互いのことを認め合いながら協働して活動したりする様子が見られた。

さらに、話し合いを通じて相互尊重の意識が高まったことは、1年生への教え方にも影響を与えた。「1年生の気持ちを考えながら話す」といった姿勢が見られ、「1年生が分からなそうだったら、もう一回ゆっくり説明しよう」といった優しい言葉かけを積極的に行う場面が見られたことから、5年生の児童は話し合い活動を通して身につけた「相手を尊重するコミュニケーション」を、1年生との関わりの中でも実践できるようになったと考えられる。教師の適切なフィードバックによる価値付けによって、児童は「相手のことを大切にすること」の意義を理解し、話し合いの中や日常生活の中でもお互いを尊重する言葉かけを自然に行うようになったと考える。

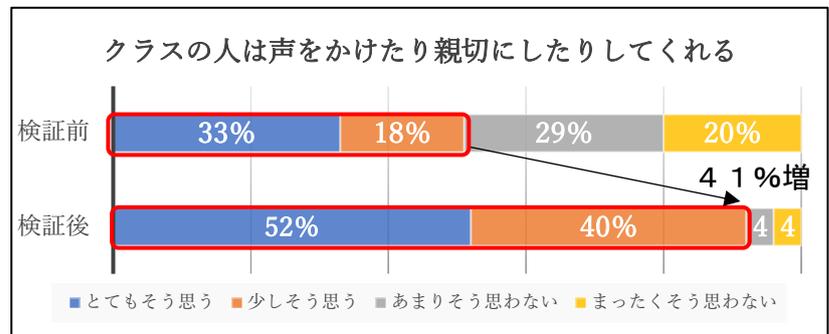
### (5) QU テストの結果から

「クラスはみんなで協力しあっていると思う」という質問に肯定的に答えた児童が35%増加した(資料12)。また、「クラスの人声は声をかけたり親切にしたりしてくれる」という質問に対し肯定的に答えた児童が41%増加した(資料13)。この結果から、クラス内での協力やお互いを尊重する意識が大きく向上したことがうかがえる。

「児童が主体的に話し合いに参画すること」で、学級内で話し合いの機会が増え、児童たちが自分たちで課題を解決しようとする姿勢が身につくと、「みんなで意見を出し合い、協力することが大切だ」という意識が自然と高まる。自分から意見を発言したり、友達の意見を聞いたりする経験を積むことで、児童同士の信頼関係が深まった。また、話し合いを通して「一人一人の意見が大切にされる場」が増えたことで、クラス全体に「お互いを尊重し合う」支持的風土が醸成されたと考えられる。また、教師が話し合い活動や児童の行動に対して「〇〇さんの意見のおかげで、みんなが納得できる結論になった」「友達の考えをしっかりと聞く姿勢が素晴らしかった」などの適切なフィードバックを行うことで、「自分たちの協力がクラスのためになっている」という実感を持つことができたと考えられる。さらに、クラスの友達に対する尊重の気持ちが育まれ、協力し合う姿勢がより強まったと考えられる。



資料12 クラスのみんなが協力し合っていると自覚している児童の割合



資料13 クラスの人が声をかけたり親切にしたりしてくれると自覚している児童の割合

## Ⅷ 成果と課題

### 1 成果

- (1) 児童の発意・発想を大切にし、学級全体に向けて声を出す場を設定し、学級全員で議題決定の場を設けたことで、学級の課題に目を向けさせ、児童が議題を自分事として捉え、向き合うことができた。
- (2) 合意形成を図る過程で、相手の意見を理解し、それぞれの意見の理由を明確にしながら話し合うことで一人一人の意見を大切にし、お互いを尊重できる児童を育成することができた。
- (3) 話し合いや決まったことの実践の場において、友達のことを認める発言や行動を教師が適切にフィードバックすることで、児童同士の認め合う言動につながり、学級の支持的風土の醸成にもつながった。

### 2 課題

お互いを尊重できる児童の育成のために、学級活動の時間だけでなく、他の教科等の授業での指導や朝の会や帰りの会などの日常生活の場でもお互いを認め合う場を数多く設定することや教師の適切なフィードバックの仕方を今後も研究していきたい。

## <主な参考文献>

- |       |           |            |                                  |              |
|-------|-----------|------------|----------------------------------|--------------|
| 文部科学省 | 国立教育政策研究所 | 教育課程研究センター |                                  |              |
|       |           |            | 『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)』 | 文溪堂 2019年    |
| 文部科学省 |           |            | 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』              | 東洋館出版社 2018年 |
| 杉田 洋  |           |            | 『小学校新学習指導要領ポイント総整理 特別活動』         | 東洋館出版社 2017年 |
| 橋本 定男 |           |            | 『子どもが力をつける話し合いの助言』               | 明治図書出版 1997年 |
| 加藤 辰男 |           |            | 『生きいき話し合い活動』                     | あゆみ出版社 1994年 |

## <参考文献 URL>

- 東京都小学校特別活動研究会  
『東京都小学校特別活動研究会 令和5年度 研究紀要第60号』2024年11月8日取得  
<https://tosho-tokkatsu.tokyo/?p=1586>